

十種燕石

後昔物語

初輯

八

10
679
7

9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8

後をむらゝ物語乃序



南野英古をよしのむらゝ何まゝ近世の俗事として今
世のつらさをのまき形を品とてゆふて其世々の見え
きつらゝかりのひ表紙をきんびを本としたるひ古き戯
柄の審附青接の紙え形をよそへて何れも免てたり
よらゝ何れも目何れも免てたりや宝暦年の戯柄
の櫓下てふ画をうすく何れも免てたりとて見え
世々をよそへて何れも免てたりとて何れも免てたりと
見えてお見え出たりと何れも免てたりと何れも免てたり
何れも免てたりと何れも免てたりと何れも免てたりと
何れも免てたりと何れも免てたりと何れも免てたりと
我々の世々のやうにおぼやうとて何れも免てたりと
古き世々も免てたりとて何れも免てたりと何れも免てたりと

常富の事耳の啓ゆ
 或は抄りて完おほ元たりし
 事れし心忘れたる水
 事れたるまの如し法也
 南の高千子此よりいふ
 抄形へ法也

享和三年癸亥九月を平澤常富六十九歳
享保二十年乙卯 閏三月二十一日生 於帛耳山出たむ水誌

附
 朱書ハ石川七左衛門考
 墨書ハ曲亭馬廷合考

目録

- 一 略曆大小の始
- 一 一县 唄
- 一 十二提灯
- 一 女の髪結
- 一 絶文老後ノ宅
- 一 向島書計尾
- 一 芳原何や免嵐書中り
- 一 小島條
- 一 本所伊豆院富山書ノ字越後を針舌越後を古尾を
- 一 現金扱身形ノ始
- 一 古入つゝ片々
- 一 ぢりぢり芝居ノ解
- 一 一本所大水
- 一 流行唄
- 一 土佐ぶ
- 一 二枚五面の小脇差
- 一 狛 草
- 一 生面又高藩を宗手市改名敷度
- 一 後者絵彩包ノ始
- 一 芝居系忠臣蔵在之ノ始り
- 一 片々具母
- 一 發ヤ唄
- 一 鄭 夢

うやめて「君は白狐相の君は指すも怪ぞも志んぞきり善や在
一草の系冊二ヶ月を連ねたり此か おまふおまふおまふのな。酒の御書

土佐

○我父の友ふ久保萍也と云ふ老人何れは是もてやみ水とて我も千
年より十歳より十三の年まで此老人の世を間たりしを何れも
今おもひ初く思ふ所をの世も覚悟しんおの世を好むと云
かめりき定家とては降り形を余程間覚えき我七他をんを
と云形をあせしん一と云形をともせしん

善悪のとき

何れつりお覚悟しん一と云酒若童より我を松風とては降り形を
きもりせりやと云くお行やつりし西様とては尾り着板共時
形をあせしん一誠形をわおの世の人形に形をいれしん
ひを足とては物にあくる物の下り人形斗えせし降り人の家何れ
不見せざりしや見たり素よりう福を左を別人のつりふ事も形
り一と云降りきて甚事とて甚盤人形に如く出をいしとて甚時を

足をさひしん何れも勤る人形を明串とて今も何れも如く

一と云法をひしん一と云且降りし人の狂とては是迄来りし出

たりのらまこと此のま弟年形を人形の居りてありまの法を
つり男の人形弟年ハ高者ありては男の人形形をせし

女郎

○此降りの我父も十年十とて今も此降りの形を山
て何れもたつた形をいし親りいれまの形をいし形をいし
形をいし形をいし形をいし形をいし形をいし形をいし

○凡降りしん一此降りの形をいし形をいし形をいし形をいし
やまらん此降りの形をいし形をいし形をいし形をいし形をいし
形をいし形をいし形をいし形をいし形をいし形をいし形をいし
夫等も作りし形をいし形をいし形をいし形をいし形をいし形をいし

内より都て志らぬ形あり

吉計の二字あり能又の事の中事一葉及の姓何や最社度て于今修し
此の事ありは程とあり形と知人の中事あり

半面又苑
高澤を
字中平
改名教度

○我十五六七の比生を由又苑と云牛程者其後古井川又苑と改めたる不
成又苑と改むるを言ふに苗字を再之改めたるおや一程高
澤苑と改むるに改たるもの之實定は比一原川全書とてより更なる
形之を用い入て原川綿原と云角の半は結縁を付たり元後
しと市川綿原甚原市川武平甚原市川原市川抄の比平
川言澤苑甚原抄平野四市界中川系中平野を修りたり原
之知り祖又の字中平は市川といひ一申形と改め市川
遠のの中平書りて之の

洛原の所幼名竹の字を修りて原中と改め元後一と名を姓なり
撫之哥川四市界中平とて改め原の苑之甚原原村宗十平と改め
四市界中平といひ一比壹二原宗十平といひ一原村書りて之

しとの形に居入宗十平師の居て中平と改めて甚原宗十平と改
めし世を早くせり中平と改めし原山表中平と改めし其
後原村宗十平後中平と改めし高野と改めし人原山表
十市原村表中平と改めし中平と改めし此名と姓を改め改
めし自書を改めしやうふ完たるものやも形

若村のや
嵐七の神あり

○延享二丑の富のの教久せりや其の市村産て若法何や先師下
り若村高平の甚原古根法徳の姓を志たり其の形はし修判り
少那一欄と書り此の教とて古名を改めし女補修の體を何や先
在たる居形なり甚原市村産る嵐山といひ是も是も是も何や先
がう若り此の教一と修判しよきと原山表と改めし其の形はし
何や先り此の教とて改めし其の形はし其の形はし其の形はし
下りの教とて改めし其の形はし其の形はし其の形はし其の形はし
若をうせたり其の形はし其の形はし其の形はし其の形はし

人のおおひの爲にあらうたれぬむどあつても書つて形をなすも
聲しき名を寂然とれを眞き名としも全形として云つて可き也

其時

○真嶺宿ありやう出て田舎茶屋の出来たるに我二十三歳強也乃
その形を身一風園先生の會自ふる其形一を即ち仰りて江尾所居
るもの先生の門人少く其自り別て甲子を中茶屋の因未りより
申く形や先生を後くしを中りて其屋去る無き事一其梅の婦
人をいつてあつて物ふ人も多うきと向ふ所の社屋茶屋に於て作爲く
形を淋々水と茶屋の徳を新くして其時節感らし茶屋をとおと
るへたり生れ時にも家の用ト若布や後柳を又甲子を川に玉をい
稱を仙石にやきりやて隔八回ををいつ水も無き自形の中

巴を

○風園先生の會自ふる其形を若くその入つて何れか巴を形く
巴を湯屋の後継徳の点者も城方宗梅の子後後阿彦曾
幸を形く点者も形くぬるに点者といふも其く下句の時も也

之八形ををいつて可周の氣を家あり毛脱をん下句のりも病氣を脱して
甚き節ふ出ま此に秋形く水に形を脱を脱向ふ下句のりも
下句の声や事也一と云やん七人を形を連書といひたる形
水の世福人毛其の毒うりて俄に代白して其句の宗梅の
足せたりしやと可周の使骨おもしろく侍り

巴を

○甚世を山に山をいつて其徳の美たるもの形く其味も也其後其
濃いりりの降山のりも山安徳のりりて其れ老女は老人七也の
小女は何れも其の形をいつて其のりりて其れ老女は老人七也の
水に我もも育得るをいつて其のりりて其れ老女は老人七也の
行んを形も何とへすやとん山を其のりりて其れ老女は老人七也の
館屋ももあらん其のりりて其れ老女は老人七也のりりて其れ老女は老人七也の
て其れ老女は老人七也のりりて其れ老女は老人七也のりりて其れ老女は老人七也の
あはらるる全徳の君を形くたるとも其のりりて其れ老女は老人七也のりりて其れ老女は老人七也の

お昔々今の半比の幕を考へて又其の三千余年しては程程
つて少の戦を御玉程をよみて園中をゆく持事たちを思
の歌をよむ程を御玉程を考へて又其の三千余年しては程程
の程を御玉程を考へて又其の三千余年しては程程

幕の口上
○幕の口上
諸君の上を仰し人形口上人の口上を成た中早に紙を自然
くを祈る者ありまゝまゝ入るも彼の今の人の面割がうて早
幕を成せし心形水共心を成しそまゝ確とては舞あすを
善中人宝曆比まゝたの口上も亦村彦の口上も亦村彦の口上も
形の中も亦村彦の口上も亦村彦の口上も亦村彦の口上も
く亦村彦の口上も亦村彦の口上も亦村彦の口上も亦村彦の口上も
を中にも亦村彦の口上も亦村彦の口上も亦村彦の口上も亦村彦の口上も
亦を亦村彦の口上も亦村彦の口上も亦村彦の口上も亦村彦の口上も

や此れ静ふかりしよみたりやとて又其の三千余年しては程程
つて少の戦を御玉程をよみて園中をゆく持事たちを思
の歌をよむ程を御玉程を考へて又其の三千余年しては程程

幕の口上
○幕の口上
此れ静ふかりしよみたりやとて又其の三千余年しては程程
つて少の戦を御玉程をよみて園中をゆく持事たちを思
の歌をよむ程を御玉程を考へて又其の三千余年しては程程
の程を御玉程を考へて又其の三千余年しては程程

一やちや胡乱あり

